

熊本県立玉名工業高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標

『工業人たる前により人間たれ』をスローガンに掲げ、「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉 工夫」「健康 安全」の教育綱領に則り、「余裕ある行動」を目標に、心豊かで個性に富み、活力あふれ、礼節をわきまえた人間性の確立に努め、我が国の産業の振興や地域の発展に寄与できる実践的技術者を育成する。

2 本年度の重点目標

1 安心安全

- ・防災教育、安全教育の推進
- ・不祥事ゼロ+いじめゼロ+生徒・職員の交通事故半減
- ・5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の徹底

2 夢実現

- ・授業の充実
- ・進路決定 100%
- ・入学志願者確保
- ・資格取得の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針の徹底	学校教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教職員には95%以上、保護者には90%以上の認知度	職員会議やPTA総会・学年保護者会・学校ホームページ等を活用して教育方針を周知する。	A	様々な行事等を活用して周知を図った。アンケート結果では、教職員98%、保護者90%が認知していると評価された。
	学校改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減による。学習指導、生徒指導の充実	会議等の削減と職員朝会を見直し、効率化を図る。	朝会及び会議の効率化を行うと共に、ゆうnetの積極的活用とペーパーレスを進める。	B	月水金実施の職員朝会を継続して実施し、6月中旬よりゆうnetの活用を促すとともに、連絡用ペーパーを廃止した
	入学定員の確保	入学希望者の増加	入学希望者確保 前期1.8倍 後期1.1倍 (昨年度 前期1.73倍 後期1.05)	①中学校訪問による工業各科、部活動等の紹介 ②体験入学の改善	A	夏の体験入学では、工業科のPRを行った。中学校訪問での、学校説明を行った。前期選抜1.90倍、後期選抜では1.21倍となり増加した。
学力向上	教科指導の改善	指導技術の向上 専門性の向上	授業に関する興味関心を昨年度以上にする。(昨年度1学期82%、2学期83%)	①授業評価の実施 ②研究授業への積極的参加(授業ユニバーサルデザイン、ICT活用)	B	授業に関する興味関心は、77%となった。夏に授業のUD化の職員研修を行うことができた。研究授業週間を1・2学期に実施した。
	基礎学力(読み、書き、計算力)の定着	自学の取り組みの向上	基礎学力の把握と教材研究の工夫を通して学習への取組の向上	①学力テスト等による基礎学力の把握 ②定期考査への取組指導	C	基礎力診断テストや学力コンテスト等を実施しているが、アンケートで自学の取り組みが39%と不足している。

キャリア教育 (進路指導)	進路の実現	卒業時の進路決定率 10月に100%達成	①基礎学力の充実 ②面接力の充実 ③課外での学力向上 ④社会性・人間性の充実 ⑤就職試験での1次合格率9.6割以上	①学校全体での取組・業者テストの実施 ②全職員による面接指導を実施 ③進学課外と個別進学課外を実施 ④インターンシップによる社会体験 ⑤就職セミナー・ガイダンスによる入社試験対策の実施 ⑥内定者セミナーの実施	B	①学校全体で取り組む必要がある。学力コンテスト以外に業者テストを実施した。 ②全職員による面接指導、工業各科職員による面接指導を実施した。 ③個別進学課外を実施した。 ④応募前企業見学の報告書を作成した。 就職内定率は12月末に100%達成した。公務員に6名が内定した。 ⑤就職ガイダンスを地域別に実施した。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	正しい制服の着用と地域に信頼される生徒の育成	①服装や身だしなみについて理解させる ②地域に信頼される行動を身につけさせる(服装検査の合格率を各クラス90%以上とする)	①服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底 ②地域に信頼される行動を生徒間で身につけさせる	B	①昨年に比べ合格率が昨年に比べ下がっている。 ②シャツ出ししている生徒はほとんど見なくなった。
		好感が持てるあいさつの徹底	①校内、校外での統一したあいさつ	①場に応じたあいさつ指導	B	①生徒会によるあいさつ運動は昨年に比べ定着した。授業時のあいさつも良くなった。 ②授業や部活動等による指導の効果も見られた。
	交通安全教育の推進	自転車運転マナーの向上・原付バイク運転マナーの向上	①通学路における交通指導 ②自転車二重ロックの徹底 ③交通事故の前年比30%減 ④交通違反の30%減	①現地での登校指導の充実 ②二重ロックの点検と集計 ③原付通学生の定例会の定着と効果 ④担任指導や全校集会等による周知徹底	C	①通学路における現地での指導は範囲を拡大し定着できた。 ②自転車の二重ロックは呼びかけを徹底し、8割の実施率だった。 ③原付バイク通学生の定例会は昨年より良くなった。また、原付バイク等の交通事故(10件から15件)は昨年より50%増加した。(原付15、自転車3件)

人権教育の推進	人権・同和教育の推進	①研修の充実と推進体制の強化 ②指導方法の工夫と改善 ③学習環境の整備・充実と指導者の育成	①学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ②人権教育だよりの配布（学期に1, 2回） ③校外の各種研修会への参加を推奨（2回以上参加65%） ④学年に応じた、効果的なLHRの実施	①人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ②人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ③校外研修に全職員へ参加の呼び掛け ④人権教育推進委員会や学年会で内容を協議	B	①部落差別の解消の推進に関する法律の研修を実施した。 ②各学期1回の研修は確保できなかったが、ハンセン病啓発や周知のための資料を配布した。 ③校外研修参加は65%を超えた。長洲の研究集会は、台風のため中止となった。 ④効果的実施へ事前協議と資料配付を行った。時期に応じた啓発資料配布が必要である。
	学力保障、進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で学習指導、生徒指導を展開（就職内定率100%）	進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切に学習指導、生徒指導の体制を強化	B	3学年と進路指導部の連携により、就職試験時の違反質問はなかった。
	命を大切にすることを育む指導	自尊感情を高める指導の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で命を大切にすることを展開	HR活動やすべての教科の授業で取り組む。	B	教科による差はあるが、全ての教科で人権・同和教育の視点を取り入れた授業実践がなされた。
いじめの防止等	いじめ防止対策	いじめ実態減少	①アンケートの実施や担任面談等による早期発見 ②携帯電話やインターネット上でのトラブル防止	①全校集会や生徒会による周知徹底 ②HRや集会等においての情報提供や呼びかけの徹底	B	①2回のアンケート実施により、いじめの実態把握ができた。また、担任をはじめとして早期に組織的な対応も場面に依じてできた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	防災型コミュニティ・スクールの取組	地域住民と学校関係者、行政の協力体制確認を行うと共に、防災訓練等での連携を深める	①学校運営協議会の実施 ②防災マニュアルの作成及び情報共有 ③防災教育の設定 ④市町村行政及び警察・消防との災害時の初期対応の連携体制確認	B	①3回実施した。 ②防災マニュアルの確認・見直しを行った。 ③避難訓練の実施避難所受付訓練、炊き出し訓練をJRC部と協力して実施した。 ④3回実施した学校運営協議会の中で確認を行った。
		地域連携	地域イベントへの5回以上の参加を目標とし、生徒自身の地域理解を進める	①市、商工会、青年会議所等の主催する地域イベントへの積極的な参加 ②生徒制作物の展示実演	A	計画した地域イベント等への積極的な参加や電気科課題研究において、地域の小学校との交流を行った。引野神社への竹灯籠展示や絵馬の制作を行った。

工業教育の推進	ものづくり教育の振興	ものづくり技能・技術の伝承	ものづくり教育を通して工業高校の魅力を発信する	①生徒製作作品の各団体への寄贈。 ②地域興しの行事に参加ともの作りの協力 ③外部講師による技術講習会の実施 ④各種大会の上位入賞。	A	①刺股・ゴミ箱（機械科）の寄贈、電気科・工業化学科の出前授業を行った。 ②竹灯籠の展示（温泉街・繁根木八幡）（土木科・電気科）、いだてんカウンタダウンボードの製作（電子科）を行った。 ③検定講習会・審査員による電子組立講習を行った。 ④ものづくり電子組立（銀賞） 測量部門（銀賞）
		ジュニアマイスター顕彰制度の各種資格取得	ジュニアマイスター取得昨年度比プラス30%、8年連続学校表彰を受ける。	各種資格の周知と新規称号ジュニアマイスターブロンズの取得推奨	A	ジュニアマイスター取得164名、特別表彰2名、受賞率が57%アップとなった。
保健管理	部活動の振興	魅力ある部活動の活性化を図る	①部活動の加入率85%以上をめざす。 ②各種大会において、上位入賞と九州・全国大会出場をめざす。	①3年間継続して部活動に取り組ませる。 ②計画的な活動と内容の充実。	B	①部活動加入率は81%であった。 ②レスリング部、ソフトテニス部がインターハイ出場を果たし、その他部活動においても全国大会、九州大会等に出場を果たし、活躍した。
		部活動での怪我の防止に努める	①毎日の健康観察の実施及び活動場所の安全管理と整理整頓。	①部活動顧問会による周知徹底。 ②明確な活動計画を提示し、必ず週1日は休養日を充てる。	B	①定期的に部活動顧問会は実施できなかったが、日頃から怪我防止・安全管理については、周知徹底を行った。
	安心安全な学校づくり	安心安全な学校のための環境整備	①「安全点検」の実施 ②飲料水（冷水機）の水質検査を毎日実施 ③いじめ等の早期発見	①学期1回の「安全点検」を行い、必要に応じ事務室へ整備・修理等を依頼する ②生徒保健委員による冷水機の水質検査を毎日実施する ③「健康観察カード」及び担任からの聞き取りにより「いじめ」を早期発見し、関係部署と迅速に対応する	A	①学期に1回安全点検を実施し、必要に応じた修理・整備が進んだ。 ②「飲料水」の水質検査を毎日実施し、飲み水の安全を確認した。 ③関係部署と連携し、早めの対策を講じ、いじめによる退学者は0だった。

心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	①「健康観察」の実施 ②保健だより等で健康に関する情報提供 ③部活動生(主将・マネージャー)への救急処置法講習会の実施	①毎日の「健康観察カード」の実施により生徒の心身の状況を把握する 毎朝、担任来室時に生徒の情報を共有する ②「保健だよりコンクール」での連続入賞を目指す ③体育系部活動主将等への救急処置法講習会の実施	A	①毎日の「健康観察カード」の提出時、担任との情報共有ができ、生徒の支援につながった。 ②「保健だよりコンクール」に於いて最優秀賞は逃したが、優秀賞を獲得し、連続入賞を果たした。 ③体育系部活動主将等を対象とした救急処置法講習会を実施できた。
	特別支援教育を含めた相談活動の充実	課題を持つ生徒・支援の必要な生徒の早期発見・早期対応 ユニバーサルデザインに関する職員の共通理解と実践	①職員研修の実施 ②生徒状況把握のための各種調査の実施 ③校内連携の強化 ④ユニバーサルデザインに関する啓発	B	①8月・12月に実施し、職員の生徒への理解を深めることができた。 ②「保護者の気づきアンケート」を全学年で実施し、情報収集ができたが、その後の活用に課題が残った。 ③「特別支援教育委員会」を軸に、校内の支援体制づくりが課題である。 ④職員研修で、各個人の実践を共有できた。
	自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成 命あるすべてのものを大切にする心を育てる	がん教育(いのちを大切に する教育)の実施 ストレス対処教育	全校生徒対象及び各学年対象の講演会の実施	B	がん教育を全校生徒対象および各学年対象に実施することができた。

4 学校関係者評価

評価項目「学校経営」の中で、入学定員の確保については、前期（特色）選抜において225人の出願、後期（一般）選抜では145人の出願となり、昨年を大きく上回る結果となった。近隣の中学校等へのアピールを継続して行ってきたことが良い成果となって現れた。今後も継続した取組が必要であり、新たな発想を考えながら取り組む必要がある。

評価項目「キャリア教育（進路指導）」においては、就職希望者が、12月時点で全員内定したことと、直近3年以内の離職率が全国平均では約40%に対して、本校は約4%と極端に少ない離職率となっている。県平均と比較しても非常に低い状況であり、満足度の高い進路選択ができている。

評価項目「学力向上」では、自学の取り組みの向上が継続した課題となっている。アンケート結果からも明らかであり、今後の課題として取り組む必要がある。

評価項目「工業教育の推進」では、毎年多数の生徒が資格取得に努めている。全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度において、8年連続して学校表彰を受けており、高い評価をいただいた。

5 総合評価

本年度は23項目で評価を行い、A判定が7、B判定が14、C判定が2という結果であった。

A判定の「学校経営方針の徹底」では、保護者へ周知するために、PTA新聞や行事等を活用し、90%の保護者が認知している結果となった。「入学定員の確保」では、前期（特色）選抜では225人の志願者で、昨年から17人の増加であった。また、後期（一般）選抜では145人の志願者で19人の増加であった。この結果については、積極的な中学校への訪問や機会あるごとにPRの実施、体験入学の工夫、部活動の活躍などが志願者の増加に結びついたと考えられる。しかし、学科毎に見ると偏りもあるため、これからも学科の魅力発信を継続して行い、生徒募集に取り組んでいきたい。

「地域連携」では、市や商工会等が主催するイベントに参加し、制作物の展示を行った。また、今年度はじめて取り組んだ地域小学校との交流では、生徒が小学生に対してものづくりの指導を行い、交流を深めるとともに、ものづくりの魅力を伝えることができた。

「工業教育の推進」では、各団体への生徒制作作品の寄贈を継続して行い成果を上げている。また、ジュニアマイスター顕彰制度の認定者数が164名で昨年より57%アップとなった。今後も継続した指導を行い、更なる充実に向けて取り組んでいきたい。

「保健管理」においては、健康観察カードを有効に活用し、生徒の心身の状況を把握するだけでなく、教育相談部と連携し支援の必要な生徒の早期発見・早期対応や、いじめ対応にも有効に活用できている。また、特別支援教育を含めた相談活動の充実では、年間2回の職員研修において、生徒理解が深まるとともに、今後の生徒支援の充実につながった。課題を持つ生徒が増加傾向にある中で、今後も研修の充実や校内の支援体制づくりに向け取り組んでいきたい。

「生徒指導」では、交通安全教育の推進がC判定であった。原付バイク生徒の定例会は昨年よりスムーズ実施されているが、原付バイク等の交通事故が昨年より5件増加した。交通安全に対する意識啓発を更に進めながら、交通事故の防止につなげていきたい。

学力向上については、アンケート調査により自学の取り組み不足が見られる。定期考査に向けた自学への取り組みを中心に、継続した指導を行うとともに、自学に対する意識高揚を図る必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 入試倍率1倍以上を継続して確保できるように、地域、保護者、中学生へのPRを積極的に行う中で、新たな取組を考え実践する。
- (2) いじめ根絶に向けた取組を一層推進する。
- (3) 地域貢献活動の工夫と更なる充実を図る。
- (4) 生徒一人一人の適正等を把握し、卒業時の進路保障100%達成を継続する。
- (5) 学習習慣を身に付けるための継続した学習指導を行うとともに、自学に対する意識を向上させるための工夫改善を図る。
- (6) 課題を持つ生徒や支援の必要な生徒の早期発見と全職員への情報共有を図る。また、具体的な支援体制の充実を図り、継続して取り組む。
- (7) 部活動を通じた規範意識の向上と、自己の目標に挑戦する生徒を育成する。